

経営比較分析表（令和6年度決算）

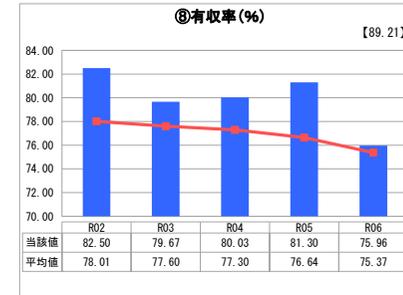
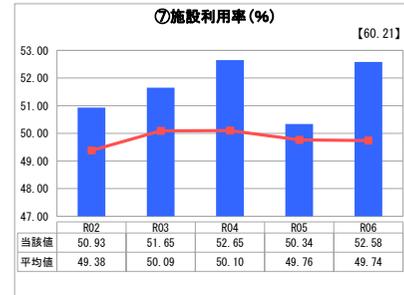
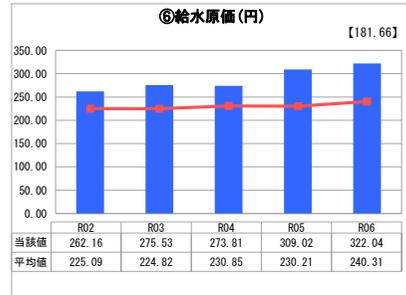
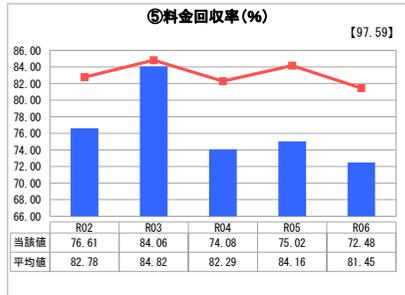
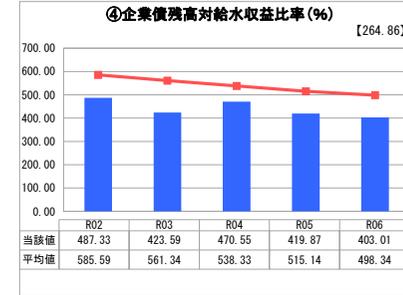
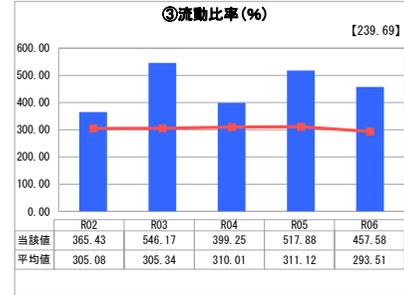
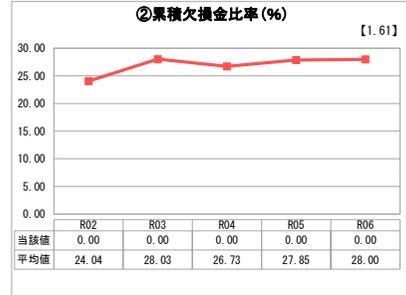
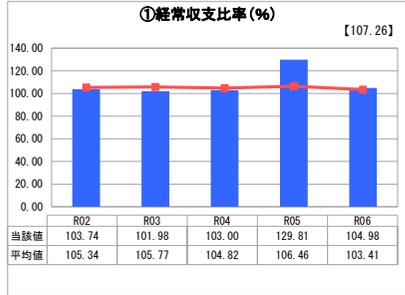
岡山県 倉敷市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	80.00	97.99	4,390	

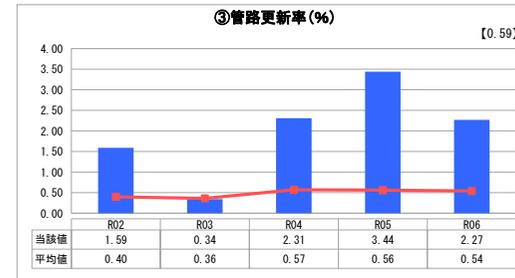
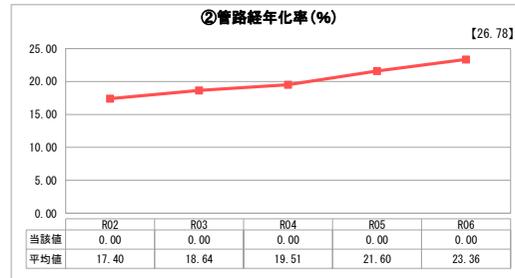
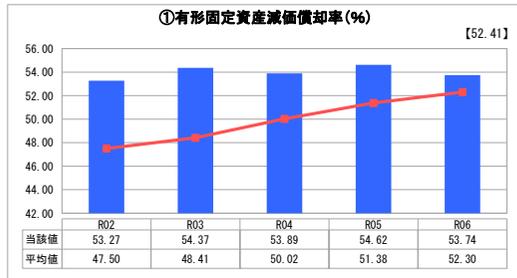
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
5,515	69.52	79.33
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
5,311	31.00	171.32

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
□	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ・経常収支比率
令和5年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響への支援策として水道料金の基本料金減免を行ったが、令和6年度はこのような支援策は実施していない。経常収支比率は100%を維持しているが、陸上自衛隊等の給水料金が減少傾向にあることから、経常費用の削減や料金回収率の向上を図る必要がある。
- ・累積欠損金比率
指標は低いが、一般会計からの繰入金によるところが大きいため、費用を抑える経営努力を続けていく必要がある。
- ・流動比率
資金繰りは悪化することなく安定しているが、今後は、配管等の更新により流動負債が増える見込みであるため、さらに収納率を上げる等、安定的な経営持続に努める。
- ・企業債残高対給水収益比率 有収率 給水原価
今後は、財政規模に応じた施設・管路等の更新や、適切な時期に漏水調査を行って有収率の維持をする等、上水道の安定供給に努める。なお、令和6年度の有収率が低下したのは、慢性的な漏水箇所が早期に発見出来なかった事が主な要因である。
- ・料金回収率 施設利用率
施設利用率は類似団体と比較すると高い水準である。しかし安定給水を維持するためには、現状規模の施設は必要となる。料金回収率は、100%を下回っており、事業に係る経費が給水収益により賄えない状況にある。

2. 老朽化の状況について

- ・有形固定資産減価償却率
増加傾向にあるものの、施設の修繕や管路の布設替え等、適切な修繕と更新を組み合わせる維持管理していく必要がある。
- ・管路更新率
年次計画により、老朽化する管路を順次布設替えを行っている。防衛の補助事業を活用し実施している所が大きく、年度比較すると更新率に差異が生じている。引き続き状況を鑑みながら更新を実施していく。

全体総括

将来的な人口減少が進む中で、有収水量の減少など厳しい財政状況が見込まれ、水道料金の検討が必要となってくる。しかしながら、これ以上の水道料金の値上げは理解が得られにくい状況である。そのため、経常経費の削減等、経営の健全性を図り効果的な運営を進めていく。